

Part. 2

「ありがとうを伝える手紙」を書くときに大切なことを教えましょう



目的

直筆で書く、心をこめて書く、いままでその人が自分にしてくれたことを振り返るなど、「ありがとうを伝える手紙」を書くときに大切なことを教え、こどもが手紙を書く際に生かせるよう指導します。



指導の流れとポイント

1

「ありがとうを伝える手紙」を書くときに大切なこととして、以下のことをこどもに指導します。

①自分の手で書く

友だちの年賀状や寄せ書きの手書き文字は、書いてくれた人の性格、書いているときの気持ちや様子まで伝わってきて、何度も読み返したくなるもの。だから、手紙は自分の字で書こう。もらった相手もきっと喜んでくれるはず、と指導します。

②いままでその人が自分にしてくれたことを振り返る

「ありがとう」を伝えたい相手のことを思い浮かべ、その人が自分にどんなことをしてくれたか、そのとき自分はどんな気持ちだったかなどをよく思い出して書こう、と指導します。

③相手のことを考えて、心をこめて書く

手紙は、自分の気持ちを伝えるもの。上手な文章や字でなくても、心がこもっていれば大丈夫。だから、相手のことを考えて、心をこめて、ていねいに書こう、と指導します。

④自分が伝えたいことが相手にきちんと伝わるように書く

自分が伝えたいことが相手に伝わるように、文章を組み立てて書こう、と指導します。

⑤迷ったら下書きをする

なにから書きはじめようかと迷ったり、伝えたいことがたくさんあって、整理がつかないときは、相手に聞いてほしいこと、伝えたいことを箇条書きにすること。そうやって書きたいことを整理してから書きはじめると、スラスラ書けるし、書き忘れもなくなる、と指導します。

⑥習った漢字を使って書く

学校で習った漢字をできるだけ使って書こう。手紙をたくさん書くことで、漢字の練習にもなる、と指導します。

⑦文字の書き間違いに気をつける

文字の書き間違いがあると、相手に自分の気持ちがちゃんと伝わらない。文字の書き間違いがないように注意しながら書こう、と指導します。

⑧書き終わったら、もう一度読み返す

書き終わったら、もう一度読み返し、文字の書き間違いはないか、自分の伝えたいことがちゃんと書けているかチェックしよう、と指導します。

Point

各項目を板書、または紙に書いて、こどもが「手紙を書くときに、気をつけること」をしっかり覚えられるようにしましょう。



Point

手紙にイラストが入っていると、うれしい気持ちや楽しい雰囲気、伝えたいことがもっとよく相手に伝わる。上手な絵でなくてもいいので、楽しみながら描いてみよう、と指導します。